三池闘争

発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033番 ③3034番
編集兼発行人 澤田紀生
年間600円　送料共

9.28迫る

許せぬ「業務上過失」

三川鉱坑内火災で 組合、責任者を告訴

三池労組はこのほど、時効(刑事訴訟法にもとずく犯罪の責任追及期限)を目前にしながら、七人の労働者の命を奪い、再度多数のCO患者を出した三川鉱坑内火災(昭和四十二年九月二十八日)における責任追及どころか、なお燃えつづけていることを口実に何一つ捜査もすすんでいない現状を黙過できず、ついに会社側責任者を「業務上過失致死」の罪を問うため、告訴することを決定した。準備完了をまって手続きをとる。

組合、ストで抗議

「講演と映画」の会計画も

屈辱の日ともいうべき"九・二八"を計画、CO闘争を中心に据えて八〇記念日もいよいよ三年目を迎え、この機に三池労組は次の行事の生命を守る闘いのために、改めて団結を固めることを決意した。

記念講演と映画の会
日時　二十七日午後六時から
場所　大牟田市民会館ホール
講演　「公害と人間生活」
東京都立大　沼田稲次郎教授
映画　「戦艦ポチョムキン」ソ連の映画で、杉並シネクラブから寄贈されたフィルム。

災害抗議集会
規模　時限スト(一時間五十分)をもって、全員参加。

主婦たちのやむにやまれぬ抗議行動の中に、酒に酔つぱらつて「ねえちやん、ねえちやん」とはいつてきて、抗議された転制(こつちを向いて立つている奴)がいた。

監督局に抗議

三池労組(宮川組合長ほか)はこの十六日、福岡の鉱山保安監督局が、何ら九・二八三川鉱坑内火災の責任追及を行なわれない事実に、厳重な抗議を提出した。

局側は「近く労使双方に関係資料を公開して協議する」と答えたが、現場がなお燃えつづけていることを口実としての、同局の責任追及回避態度は問題となっている。

そして二十八日午後三時から三川鉱裏門で行なわれる抗議集会に参加。

行動　集会終了後、三川鉱正門までデモ行進。九・二八犠牲者の霊に対し献花。

他に主婦会の参加もきまっている。

CO患者実態

九・二八=三川鉱坑内火災でも多数のCO患者を出したが、いまなお次のように苦しい生活をおくっている。(三池労組ばかり)

入院　四人(白鳩三、曙一)
通院　五〇人(白鳩、曙)
復帰　二七人(右　同)
死亡　一人
退職　一〇人

他に新労組への脱落者一人。

なお九・二八坑内火災は、昭和四十二年のその日三川鉱で発生、上村孝知さん(三池労組員)ら七人の命が奪われ、新たに多数のCO患者を出した。

今年五人目の犠牲出る

「保安責任の追及を」

釜井さん(新労組合員)の死に怒り

この頃三池では災害・事故がうちつづいて暗い不安をかきたてていたが、去る十四日ついに、今年五人目の犠牲者を出すに至った。しかもこの犠牲者が、九・二八(死者七人に、多数のCO患者を再発した三川鉱坑内火災の日)という怒りの記念日を迎えようとしているうえに、今年の犠牲者のうち四人(今回も)までが、昭和三十八年十一月九日、あの炭じん大爆発を起こした三川鉱(鉱長=織田亮三郎)で起きた事故によるものである事実に、改めて怒りが爆発している。

こんど犠牲にされた人は、新労組合員の釜井学さん(三十八才、荒尾市万田西町七棟。犠牲者のすべての人が、新労組合員や職員である事実に、とくに注目しよう)

事故が起きたのは十四日午前十時十五分ごろ。現場は、三川鉱坑底本層二十六卸六片上段払十メートル附近で、坑口から約六千六百九十五メートルのところ。

突然タテ、ヨコ六十センチ、厚さ二十五センチのマツ岩が、高さ二メートルの天上から、ちょうど作業中だった釜井さんの背中に落下。そのため釜井さんは鉄柱とマツ岩に体をはさまれて肝臓破裂。そのうえ肋骨を骨折するという重傷。天領町の三井本院にかつぎこまれたものの回復せず、同日午後七時四十分(事故から九時間後)ついに永眠した。

釜井さんの命もまた、まさしくシャニムニ五千人で二万トンの出炭体制を強行する三井の手によってむしりとられたのである。

事実災害をひき起こした現場は採炭をいそぐあまりカッペ延長作業が遅れ、そのため露出天盤となっていたこと、容易にできる天井点検がまったく不十分であったこと、マツ岩処理の指示が徹底を欠いていたこと―など、明らかに保安無視が歴然としていた。しかも釜井さんの死は、去る昭和四十三年の目野さん、田中さん、同四十四年の平野さんらの命を奪った事故とまったく同じ原因によるものだという。ここに、いまもって生産第一主義を押し通す三井の姿勢がさらけ出されている。

とまれ釜井さんの命を奪った事故の後、三川鉱はあわててカッペを延長している。坑内に働く労働者をバカにするのにもほどがあるが、「これで、日ごろとかくできないできないと、口ぐせにいい続けてきたこの種の保安対策が、やろうと思えば立派にできることだったことがハッキリした。も早や犠牲者の釜井さんが、一だろうと二だろうと関係はない。九・二八を迎えようとしているいまこそ、会社の責任を追及すべきだ」と、職場から声があがっている。

公害闘争を積極的に

総評民間単産会議の第五回定例代表者会議(定例総会)は、七〇年度の活動のすすめ方として「地域包括最賃へと一歩前進して最賃闘争を、さらに全国一律制にむけておしすすめるため積極的にとりぐむ」、などのことと共に、「公害闘争について地域の市民運動と結合して、相互に交渉を強め積極的にとりくむ」とを決めた。

自然発火で 何べん殺したか

三井は九・二八の責任とれ

K生

九・二八(昭和四十二年)三川鉱坑内自然発火の問題について、考えていることを書きます。

そこは坑内職場の生産の第一線に通ずる主要坑道です。

会社はそこを「現在もまだ燃えつづけている」として、坑道入口を閉鎖したまま目かくしをしている現状です。企業として利潤だけを考えている証拠であり、働く者の生命のことなど何も考えてはいないのではないでしょうか。しかも労働者の生命の保護の責任を負う労働基準監督署が真っ先になって、「燃え続けているので、現在も原因がわからない」といっている。政府の機関として、企業に対して余りにもへりつくばっているように思われてならない。

人間の生命は、地球よりも重いといわれています。それなのに、これでは働く者を犠牲にした九・二八の自然発火の責任を追及するのも困難ではありませんか。今まで「自然発火」ということで、何回人殺しをされたことか。

CO患者を見よ。一一・九のときのCO患者としては七級認定の問題その他があり、九・二八関係のCO患者については差別取扱いの問題があり、業務上症病認定の問題などがある。その苦しみは、一一・九の患者も九・二八の患者も変らぬと思います。

皆さん、生命を大切に守るために、職場で作業を無理をしないで保安・衛生条件を確保する闘いを強化しましょう。職場の職制がたじたじになるまで、保安問題を追及しましょう。職制とても人間であり、労働者である。ましていかに会社のためと思って働いても、病気になったが最後、会社は本人の自業自得としかあつかわないことはわかっている。

九・二八(一一・九も)における三井鉱山の責任を追及するためCO患者として告訴し、あくまで闘いを進めることを誓います。

× ×

この文は投稿によりましたが、中に意味の伝わりにくいところがありましたのでかなり書き改めましたので、ご諒承をお願いいたします。

CO患者の皆さん、どしどし意見や抗議をご投稿ください。たとえ文章はうまくまとまらないでも一生懸命に書いたものが人の心を動かさずにはいません。

―編集部

× × × ×